

開催日時：平成29年7月19日（水）13：30～15：00

開催場所：ルポールみずほ 3階 ゆりの間

出席者：三浦亮評議員（議長）、木村評議員、佐々木評議員、
館岡評議員、小林評議員、三浦潔評議員、松淵評議員、
中田支部長、桜田部長、大野部長、佐藤グループ長、二田グループ長、安田グループ長、
三浦グループ長、堀内グループ長補佐、三澤主任、菅野主任（記）

議事録署名人：館岡評議員（被保険者代表）、松淵評議員（学識経験者）

委任状受理者：松浦評議員、佐藤評議員

■ 議事事項

1. 平成28年度事業報告について
2. 平成28年度協会けんぽの決算と秋田支部の収支について
3. インセンティブ制度について
4. その他

■ 質疑応答、意見交換等

1. 平成28年度事業報告について

【学識経験者】

秋田支部事業運営における数値指標だが、保健指導について平成28年度実績に比べて、平成29年度の目標値が低いのではないかと。

また、メールマガジンの新規登録についても平成28年度実績に比べて平成29年度の目標値が低いのはどうしてか。

【事務局】

健診数の増加により、保健指導対象者が増えるということもあり、それに見合った目標値にしている。

また、メールマガジンの目標値については本部から示された目標をもとに設定している。必ずしもこの計画による目標値ということではなく、それを上回るということ考えている。

【学識経験者】

平成28年度の秋田支部事業運営における数値指標だが、秋田支部の順位について全国的にみて思いのほかいいと思う。国は国民健康保険の病気予防の取り組みに関する都道府県ランキングについて試行的に示しているが秋田県は全国最下位だった。病気予防と関連するデータは数値指標のどこになってくるのか。協会けんぽと国保、県全体としてはそんなに違うとは思えない。

【事務局】

病気予防と関連するものについては保健事業関係、ジェネリック関係などが該当している。

今回のランキングの指標は健診もちろんあるが、国保税の収納率、糖尿病の重症化予防対策、データヘルス計画等が絡んでくる。国保と協会けんぽで健診についてはそれほど変わらないが、重症化予防対策、データヘルス計画をたてている市町村が少ないなど総合的な要素があり、このような結果となっていると思われる。

【事業主代表】

ジェネリック医薬品と先発医薬品はどう違うのか。

【学識経験者】

医学的というと有効成分の用量は同じ。ただ、錠剤作成にかかわるその他の成分を含めて、剤型全体による吸収がどれくらい違うかなど調べている後発メーカーは少ないと思う。

【事業主代表】

ジェネリックは安いけど、最初に先発品を開発したところは当然、負けると思う。先発品の値段は高いまままでいくのか。

【事務局】

先発品は、特許期間が約 20 年くらいあり、それが切れたあと、同じ成分の薬が後発医薬品ということで売り出される。先発品と後発品は混在している。

【被保険者代表】

ジェネリック医薬品を使用し、薬で副反応があった。薬の基盤になる剤型成分が違うということでそこにアレルギーがでるかもしれないとの指摘が医師からあった。不安もあるのでやはり先発の薬を使いたくなる。

【学識経験者】

先発品は 5 年、10 年と時間をかけ開発しているので、効果のみならず副作用がどのくらいあるか、どのような患者の方には使うべきでない、などがわかっている。患者の方々からすれば、前からある薬の方が効くのではないかという心理は大きい。いろいろなファクターが絡んでいる。

【学識経験者】

ジェネリックの使用促進についてだが、薬局ではジェネリックを勧めなくてはいけないと義務付けられているのではないかと。

【事務局】

薬局はジェネリックの使用割合が一定の割合になると診療報酬が加算される。制度自体は、ジェネリックを促進する方向になっている。

【被保険者代表】

協会けんぽでは、被保険者には広報等でジェネリック使用について働きかけているが、医療関係、医師会・薬剤師会などには働きかけているのか。

【事務局】

秋田県医薬品安全安心使用促進協議会のメンバーになっているが、そのメンバーには医師会、薬剤師会からも入っていて、その中で協会けんぽのジェネリック使用割合など説明させてもらっている。国としては、使用割合 80%を目指すということで取り組んでいて、協会けんぽとしても薬剤師会等に働きかけしている。

【学識経験者】

先発品は、5～10年以上の開発期間をかけ、お金もすごくかけているがジェネリックは開発の期間が短く、含まれている有効成分以外の副作用などの安全性のデータが少ない。患者の方々にとって薬代が安くなるのでジェネリックはいいこともある。ジェネリックに変更して副作用が出たからといってジェネリックが原因かどうかは簡単にはわからない。ただ、抗がん剤とか抗感染症薬など、疾患が患者の生命に直接かかわってくるので患者の方々にジェネリックを使わなくてははいけないとはいえない。協会けんぽとしてジェネリックの推進はできると思うが必ず使いなさいとはならないと思う。

【被保険者代表】

ジェネリックの使用割合で秋田支部数値指標一覧とジェネリック使用割合（平成29年3月）の2つの資料で数字がどうして違うのか。

【事務局】

年平均と平成28年度末（平成29年3月）時点での使用割合の違いになってくる。

2. 平成28年度協会けんぽの決算と秋田支部の収支について

【事業主代表】

収支についてだが、賃金を決める要素として物価水準が大きな要素としてあると思うが、この試算をみると極端なことをいうと賃金水準が上がれば、収支はよくなるのか。

【事務局】

賃金に保険料率をかけて保険料収入となるので、基本的に賃金水準が上がってくれば収支は良くなることになる。

【学識経験者】

今後、消費税のアップがあるがどう影響してくるのか。

【事務局】

消費増税分がどのような影響をあたえるかは、現段階では不明である。

【学識経験者】

被保険者が増えているがどのような要因が考えられるか。また、これからも増え続ける見込みなのか。

【事務局】

適用拡大などにより、適用事業所が増えており、またパート従業員の適用も増えている。ただ、今後増え続けるわけではない。また、秋田支部では被扶養者は減少しており、全体的な加入者は減少している。総合的にみると人口減少が影響していると考えられる。

【学識経験者】

適用事業所数が増えているが、健保組合からの移行などどのくらいあるのか。

【事務局】

健保組合加入で秋田県に本社がある会社は少ないので健保組合からの移行としては秋田は少ない状況。全国的に見れば、移行による加入者の増加はあると思う。

【学識経験者】

収支状況は協会けんぽは良くなっているように思うが健保組合は良くない。保険料率等、健保組合のメリットも減っているので協会けんぽに移行してくる事業所も多くなってくるのではないかと。

【事務局】

新聞で健保組合の4分の1は解散危機との報道もあるが、厳しい状況にあると思われる。

【学識経験者】

退職者医療制度をもう少し詳しく教えてほしい。

【事務局】

内容について説明。

【議長】

—採決—

平成28年度秋田支部の収支については全員一致で承認された。

3. インセンティブ制度について

【学識経験者】

どのようになっていくのか影響度がみえてこない。

【事務局】

本部から具体的なシミュレーションがでてきた段階で皆様にお示ししたい。

【学識経験者】

感想だが、インセンティブ評価指標の「4.医療機関への受診勧奨を受けた要治療者の医療機関受診率」、「5.後発医薬品の使用割合」だが、対前年度上昇幅が50%はウエイトが大きすぎるのではないかと思う。すでに率が高い支部が不利益を被ると思う。

【事務局】

ご意見として承りたい。

■次回評議会の開催 10月開催予定

以上